

第7回 足立区パラスポーツ推進協議会 会議録

会 議 名	第7回足立区パラスポーツ推進協議会		
事 務 局	生涯学習支援室 スポーツ振興課		
開 催 年 月 日	令和7年9月1日（月）		
開 催 時 間	午前10時00分 ～ 午前11時22分		
開 催 場 所	足立区役所 8階 特別会議室		
区長の出席	有・ ☒ 無		
出 席 者	会長 盆子原 秀三 委員	副会長 藤後 悦子 委員	副会長 植松 隼人 委員
	副会長 安岡 由恵 委員	飯ヶ谷 美恵 委員	鶴沢 勝 委員
	加藤 仁志 委員	鈴木 真理子 委員	桑原 芳枝 委員
	小金井 寛 委員	齋藤 安江 委員	佐藤 奈緒 委員
	照井 智幸 委員	柳川 富士雄 委員	中島 進 委員
	中村 一昭 委員	高橋 至和子 委員	羽住 敏久 委員
	原 則子 委員	森澤 美穂 委員	茂木 聡直 委員
	伊東 貴志 委員	馬場 優子 委員	
欠 席 者	鈴木 常義 委員	西方 雅良 委員	永島 崇子 委員
会議次第	1 新任委員の委嘱 2 アクションプランと答申について 3 今後の協議会運営について 4 その他 5 次回日程について		
配付資料	・資料1 足立区パラスポーツ推進協議会委員名簿 ・資料2 アクションプラン変更箇所一覧 ・資料3 足立区パラスポーツアクションプラン（最終案） ・資料4 区のデフリンピックの取り組み状況について ・資料5 排せつコントロールができない方のプール利用について		
そ の 他	傍聴人： ☒ 有・ ☐ 無 その他の参加者：有・ ☒ 無		

(審議経過)

<原田スポーツ振興課長>おはようございます。朝からありがとうございます。

それでは、定刻でございますので、ただいまから第7回足立区パラスポーツ推進協議会を開催させていただきます。

本日は、お忙しいところご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

私、スポーツ振興課長の原田でございます。よろしくお願いいたします。着座にて失礼いたします。

審議が始まるまで、私が司会進行を務めますのでお願いいたします。

本日、委員26名のうち21名の委員の方々にご出席いただいておりますので、定足数であります過半数を満たしており、本協議会は成立しております。

また、本協議会は条例で公開を原則としており、会議記録はホームページ等で公開させていただきます。会議記録を正確に作成するために、皆様のご発言を録音させていただいております。

前回の第6回パラスポーツ推進協議会の議事録案につきましては、事前に郵送させていただいております。内容の修正がございましたら、お手数ですが、9月30日までに事務局までお申し出をお願いします。

ご発言の際は、恐れ入りますが、挙手をお願いいたします。お名前をお呼びいたしますので、お手元のマイクのスイッチを押して発言をお願いいたします。ご発言が終了しましたらスイッチをお切りください。マイクのスイッチ操作につきましては、近くの係員がサポートさせていただきます。

なお、本日の傍聴の方は2名いらっしゃっています。

また、公開はいたしません、記録のための写真撮影をさせていただきますので、ご了承ください。

1 新任委員の委嘱

<原田スポーツ振興課長>それでは、本日の審議に入らせていただきます。

まず次第の1番、新任委員の委嘱でございます。お名前をお呼びいたしますので、恐れ入りますが、その場でご起立をお願いいたします。

視力障害者福祉協会選出委員、柳川富士雄様です。一言ご挨拶をいただけますでしょうか。

<柳川委員>初めまして。視力障害者福祉協会の柳川と申します。初めてのことで不慣れな点が多々ございますが、皆様のご協力の下に私も頑張って務めさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。(拍手)

<原田スポーツ振興課長>よろしくお願いいたします。

続きまして、次第2に移る前に資料の訂正がございます。

資料3の「アクションプラン(最終案)」をご用意ください。なお、資料の修正箇所は机上にも配付させていただいておりますが、口頭でもご説明させていただきます。

まず1点目。表紙をおめくりいただきまして、「目次(案)」とついておりますけれども、「(案)」を削除いたします。

2点目。3ページ目の「4 計画期間」について、「令和9年度」の後に「まで」という言葉を追記いたします。「令和9年度まで」といたします。

3点目でございます。11 ページ目でございます。こちらの「目指す姿(目標)」の一番下の枠に「パラスポーツの普及を通じて障がいのある方への理解が広がっている」としてあります。こちらの記載について、後ほどのご説明にはなるのですけれども、同様の記載が2ページ目にもございます。2ページ目の記載を変更しているのですけれども、11 ページ目の記載の修正が反映されておりましたので、そちらの修正を行います。

また、4点目でございます。19 ページ目をご覧ください。一番上の「パラスポーツアクションプランの策定、進捗管理及び見直し」のところにつきまして、事業概要の最後のところで「4年に1度見直しを行う」と記載しておりますが、こちらも修正漏れとなります。正しくは「見直しに合わせて、施策等の見直しを行う」となります。

5点目でございます。資料4「デフリンピックの取り組み状況について」をご覧ください。裏面の一番上のアのところに「小菅刑務所」と書いてしまっているのですけれども、「東京拘置所」の誤りでございます。

修正箇所が大変多くて申し訳ございません。よろしくお願いいたします。

それでは、ここから具体的な審議に移りたいと思います。

盆子原会長、進行をお願いいたします。

<盆子原会長>盆子原でございます。暑い日が続く中、協議会にご参加いただきまして誠にありがとうございます。

後ほどご報告をいたしますが、皆様のご協力の下、アクションプランが完成いたしました。幾つかの修正等がございますが、完成に至りましたこと皆様に感謝申し上げます。

しかしながら、これは次のステップにつなげるための一つの節目でしかございません。第1回目から各所属での現状についてご説明をいただき、また、その思いを共有してまいりましたが、それぞれに出された問題点が、全てこれまでの会議を

通して解決できたわけではございません。むしろこのアクションプランによって、事業による活性化が求められることになります。

ただ、この協議会を通しての一番の成果は、ここにお集まりの皆様方の多様な構成員のつながりができたということです。まさに協創・協力してつくるという機会の場ができたということです。より一層の連携を強め、アクションプランが目指す目標の達成ができればよいと思っております。本日も活発なご意見を頂けますよう、よろしく願いいたします。

2 アクションプランと答申について

<盆子原会長>それでは、次第の2番「アクションプランと答申について」です。

まず、変更箇所の説明について、事務局より説明をお願いいたします。

<原田スポーツ振興課長>それでは、私からご説明いたします。

資料2「アクションプラン変更箇所一覧」と先ほどの資料3「足立区パラスポーツアクションプラン（最終案）」をご覧ください。

第6回の協議会では、アクションプラン全体を通して矛盾や不足がないかのご確認をいただきました。その上で、前回の会議をご欠席されました安岡委員に別途ご意見を伺いまして、盆子原会長と最終内容調整を行いました。軽微な文言修正は割愛させていただき、大きな変更点を中心にご説明いたします。

主な変更点は以下のとおりでございます。

まず、2ページ目の「3 目指す将来の姿」の（5）についてです。変更前は「障がいのある方の理解」でしたが、より具体的にどのようなことを指すのかが分かりにくいというところで、「障がいについての理解」という文言に変更いたしました。

続けて、5ページ目の「学校」の役割についてです。インクルーシブ教育の推進の観点から、「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育の推進」という役割を新たにウとして追加しております。

続けて、12ページ目をご覧ください。「障がいのある方への移動サポート制度の検討（新規）」が主な事業の1の③にあります。変更前は「＊協議会で検討」という注釈がありましたが、他の記載と合わせるために、この注釈は削除しております。なお、本事業は引き続き取組内容を検討中でございます。

続きまして、16ページ、「2 学習機会の提供」についてですが、こちらは「障がい者がかわいそう」とか「助けてあげるべき」といった誤解を避けるために文言を追加しております。

続いて26ページ、スポーツコンシェルジュの令和7年度、令和8年度の目標値についてでございます。変更した理由でございますけれども、令和6年度と令和7年度の目標値が同じで、向上値となっていないというご意見を受けまして、令和7年度は相談後活動につなげた割合を当初の75%から80%に、令和8年度は75%から85%に引き上げました。これは相談を受けた全ての障がい者を活動につなげるのは困難であるという実情も考慮した上での変更でございます。

最後でございます。31ページの「学校訪問型パラスポーツ体験事業」の事業概要についてです。こちらは「単に競技ルールを覚える授業ではなく、「どうすればできるようになるか」を考えて行動する創意工夫を通じた障がい者理解を促し、児童が将来の共生社会実現のための担い手となっていくことを目指す」という文言を追加いたしました。

説明は以上でございます。

<盆子原会長>ご説明ありがとうございます。

それでは、ただいまの説明について、ご意見やご質問などがございますでしょうか。挙手をお願いいたします。

いろいろ細かい修正点がございますが、何かございましたらご意見を頂けますようお願いいたします。

それでは、ご意見がないようでしたら、次の区長への答申についてに移ります。

こちらについては、私からご報告をさせていただきます。

皆様から頂戴した意見を基に、この協議会としての足立区パラスポーツアクションを完成させ、先日8月26日に、区長が急用だったということで、副区長の勝田様に直接手渡しをいたしました。

副区長からは、各所属から多くの意見が出されているということについては高く評価をされておられました。パラスポーツ推進協議会の考えは、足立区基本計画にしっかりと寄り添った形であること、そして各所属からの思いをアクションプラン、いわゆる政策に具体的に落とし込むことについての重要性について、互いに同じ認識であることを確認させていただきました。

また、これから開催されるデフリンピックにおいて、より多くの方が関心を持っていただきたいとのご要望をいただきました。

報告は以上となります。

ご質問などがございますでしょうか。

それでは、ご質問がなければ次に移りたいと思います。

アクションプランの今後の予定について、事務局より説明をお願いいたします。

<原田スポーツ振興課長>協議会の答申を受けまして、区では、協議会案のとおり、9月1日、

本日付で足立区パラスポーツアクションプランを策定いたします。

内容につきましては、近日中に区ホームページへの公開を行います。

また、こちらは製本いたしまして、関係する皆様にお配りする予定でございます。こちらは業者委託して印刷する予定ですので、いましばらくお待ちいただければと思います。お配りする先ですとか部数につきましては、環境に配慮した紙の削減や予算都合も含めて検討してまいります。協議会の審議でもご意見がございましたけれども、視覚障がい者の皆様が読み上げソフトを使用してお読みいただけるよう、表や図をテキストに置き換えたものをホームページに掲載したいと考えております。作成いたしましたら、公開する前に当事者の方にご確認をいただいた後、ホームページに掲載したいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

本アクションプランは令和7年度から9年度の3年間を計画期間としておりまして、令和8年度には上位計画である足立区運動・スポーツ推進計画の見直しが行われるため、その改定を踏まえて翌年の令和9年度に本アクションプランを見直す予定でございます。

以上でございます。

<盆子原会長>ご説明ありがとうございます。

それでは、ただいまの説明について、ご意見やご質問などがございませうでしょうか。よろしくお願いいたします。

何かございませうでしょうか。

私のほうからでございますけれども、ホームページの公開ということと、製本というのは開いて読まなきゃいけないので、なかなか一般の人に周知しづらいような感じがいたします。そういった意味においては、チラシ等のほうがよろしいのかなとは思っておりますけれども、いかがでしょうか。

<原田スポーツ振興課長>チラシを作成というのは案にはなかったもので、これから検討したいと思います。ありがとうございます。

<盆子原会長>よろしくお願いいたします。

いかがでしょう。

インパクトのあるスローガンとか、そういったもので障がい者ウェルカムという雰囲気を出したいなとは思っております。

また、これまでの意見の中で、チャットグループをつくらぬといひますか、URLのコードを埋め込むとか、そういったところで相手方のいわゆる連絡といひますか、そういったものができればとは思っておりますが、いかがでしょうか。

<原田スポーツ振興課長>チャットグループというのはどんなイメージですか。

<盆子原会長>言っておられましたよね。

<藤後副会長>スポーツミーティングのところであ……

<盆子原会長>情報を見た人が、どういふ情報を知りたいかといふうなことが分かれればなとは思っているのですけれども。

<原田スポーツ振興課長>情報共有をするためにチャットグループが。

<盆子原会長>ただチラシを配るといふだけではなくて、その反応をこちらのほうで吸収していくといひますか。

<原田スポーツ振興課長>分かりました。チャットグループはあれですけれども、フィードバックする機会といふのは検討したいといひます。ありがとうございます。

<盆子原会長>ほかに何か。

<植松副会長>足立区民の皆さんにお知らせしたい意味合いがあるんですね。品川区で言うとなLINEグループといふのがあるのですけれども、主婦の皆さんって情報をどこで取り入れているかといふたら、LINEグループといふんですね。上がってくるから、自動的に。僕も登録して、どんなタイミングで上がってくるかといふと、毎日昼なんです。昼には上がってくるんですね、ぶわーって。日によつては14件、15件の情報がばーっと出るんです。自分の興味があるものだけ。チラシデータをそのまま貼り付けているんです、LINEに。文字じゃなくて。文字よりもチラシがデータとしてあつたほうが開いてくれるので、その活用の仕方がもしあるのであれば、僕はそれが一番いいなといふ印象と、今、区長のお話もあつたのですけれども、区長ももうちょっと動画に出てもいいと思う。Xでもインスタでもいいんですけれども、20代、30代に刺さってほしいのだったら、チラシじゃなくて自動的に上がってくるような、ポイントを押さえて。ここを伝えたいんだ、訴求したいんだといふ部分だけ、そういう使い方もいいかなと思ひます。

<原田スポーツ振興課長>ありがとうございます。公式LINEは足立区でもやっていたりするので、そういうところでPRといふのもいいのかなと、今ご意見を頂いて思ひました。ありがとうございます。

<盆子原会長>ありがとうございます。

そのほかの委員からご意見はございませうでしょうか。

<藤後副会長>藤後です。よろしくお願いいたします。

今の広報のお話にちょっと補足させていただきたいのですが、たまたま足立区の区民評価に関わつておりまして、今回パラスポーツ推進事業といふものが評価対象であつたのです。

その評価対象の中でのコメントとしまして、意義はすばらしいといふことが、まず前提として皆

さん方からコメントを頂いています。一方で、事業の周知の仕方というところにご指摘を受けております。

具体的なコメントをお伝えしますと、現状は障がい者施設へのチラシ配布が中心となってしまっている、未参加者や在宅の障がい者の方々へも情報が届くようにすべきではないでしょうかというようなコメントが来ております。もう一方で、理念は本当に素晴らしいのですが、参加されている方々も含めて、どんな状況なのか、もう少し現場の方の声を拾ったほうがいいのではないかなという声が上がってきておりますので、広報というような視点、それと現場の方々の声というところの吸い上げについて、ぜひ引き続きご検討いただければと思います。

<原田スポーツ振興課長>ありがとうございます。今おっしゃっていただいたように、区民評価委員会でもご意見を頂いております、情報発信というところと、意見を集めるという部分で頑張っていけないといけないと思いますので、そこは引き続き努力したいと思います。ありがとうございます。

<盆子原会長>そのほかございませんでしょうか。

<安岡副会長>すみません。今の周知に、また畳みかけるような形になって申し訳ないのですが、植松さんがおっしゃっていたように、施設に既に入られている方というのは、学校もそうなのかもしれませんが、何らかの方法で情報を入手することができると思うのですが、一方で、例えば先天性の障がいを持って生まれたお子さんのご家族の方たちは、地域の中でのコミュニティに所属しているかどうか、お一人でどうやっていいのかわからないという状況が割と想定されるかなと思うのです。ですから、そういったご家族の方たちにも発信をする。むしろ人生の初めの頃にスポーツの楽しさに触れる機会というのを考えていく上では、やはりその世代のお母様というか、保護者の方たちがメインで使われているプラットフォームを活用するというのが、情報を届けるのに一番有効かなと思います。新しい世代を発掘するというか。10年、15年たてば小学生、中学生になって、立派にそのスポーツ人口の中に組み込める世代になってきますので、区役所の仕組みとしては、もしかすると新しい取組になる可能性があるかなとは思いますが、すぐやなくてもいいと思うので、一応課題の一つとして特筆しておくといいかなと思います。ご検討をお願いします。

<原田スポーツ振興課長>ありがとうございます。おっしゃるとおりで、コミュニティに所属されていない方にどう情報を届けるのかって、今回のパラスポーツに限らず行政としてのずっと課

題でもあって難しいところがあるので、今おっしゃっていただいたような新しいプラットフォームを活用してうまく発信できたらと思います。ありがとうございます。

<盆子原会長>貴重なご意見を頂きましてありがとうございます。これは今後の検討事項としてよろしいでしょうか。

<原田スポーツ振興課長>そうですね。

<盆子原会長>分かりました。

そのほかございますでしょうか。

3 今後の協議会運営について

<盆子原会長>それでは、次第3の「今後の協議会運営について」に移ります。

まず、アクションプランの記載事項の確認について、事務局よりご説明をお願いいたします。

<原田スポーツ振興課長>それでは、アクションプランの3ページ目をご覧ください。

アクションプランの進捗管理についてでございます。こちらの協議会の場で、「年に1回本アクションプランに記載された役割や施策等の活動状況を報告し合い、本プランの進捗状況を共有します」とあります。

また、4ページ目に協議会の役割を記載しております。パラスポーツ推進協議会の役割として、「アクションプランの目指す将来の姿の実現に向けて施策を推進」となっております。

今まではアクションプランの内容についてご審議いただくために、委員の皆様には3か月に一度程度お集まりいただきましてご意見を頂戴してきました。今後につきましては、皆様の活動内容の報告ですとか、意見交換というところが主になりますので、3か月に一度お集まりいただくのは期間が短いかなと考えております。

今までの開催ペースですと、次の開催は12月となるのですが、次回の開催は来年の2月～3月といたしまして、委員の皆様から各主体の役割に沿った活動報告などをしていただきながら、今お話しがあったような継続審議の案件も含めて意見交換ができればと考えております。

事務局からは以上でございます。

<盆子原会長>ご説明をいただきましてありがとうございます。

それでは、(2)委員の意見交換に移ります。アクションプランに記載されています進捗管理と協議会の役割についてご意見を頂きましたが、今後の協議会運営についてご意見などがございましてでしょうか。よろしく願いいたします。

これまで2～3か月というところで開催しておりましたが、今後については活動報告などを含めて来年の3月ということになります。いかがでしょうか。——よろしいでしょうか。

なければ、今後の流れについては、次回から区と皆様の活動報告や意見交換を中心に、アクションプランの進捗状況を確認していくということにしていきたいと思っております。

また、今回の開催については、2月～3月に開催することで事務局に調整をお願いいたします。

4 その他

<盆子原会長>それでは、次第の4「その他」の(1)デフリンピックの取り組み状況について、事務局よりご説明をお願いいたします。

<原田スポーツ振興課長>それでは、次第4「その他」の(1)デフリンピックの取り組み状況について、ご説明させていただきます。資料4をご覧ください。

区では、デフリンピックを区民の皆様を知っていただくために今まで様々な取組を実施いたしました。昨年7月にはビューティフル・ウィンドウズ運動のキャラクターでございますビュー坊をデフリンピックの応援隊に設定いたしました。

またアトリウムで、パリパラリンピックのPR展示と併せまして、デフリンピックのPR展示を実施いたしました。

昨年、令和6年10月には、スポーツカーニバルで、植松委員にご協力いただきましてデフサッカー体験を実施し、11月には、あだち広報への記事掲載やポスター展示を行いました。

前回の協議会でご報告いたしましたけれども、今年の4月29日にはクライフコートフェスティバル内でデフアスリートによる講演と体験、ビュー坊の出演、そして東京都ブースの出展による応援メッセージ募集ですとか情報保障の展示が行われました。

今年6月には、しょうぶまつりという区のイベントでPRブースを出展いたしました。7月には「教育だより」という冊子に、デフアスリートのインタビュー掲載ですとか、足立区のホームページにも掲載いたしました。

また、足立区内の商店街にデフリンピックのポスターを掲示することを依頼いたしました。8月には区役所1階のアトリウムでPRのパネル展示、そして8月2日にはデフリンピック開催記念ワークショップを開催いたしました。大学の先生ですとかアスリートによる講演、各種体験会を行いました。

今後の予定になりますけれども、イベントでのPR周知を継続いたします。9月には先ほどお話しした東京拘置所の矯正展ですとか、西新井にアリオという商業施設があるのですけれども、そこでPR展示を予定しております。10月には足立区のイベントで区民祭り(Aフェスタ)がありまして、そこでPRをしたりですとか、あとはスポ

ーツカーニバルをスポーツの日に行うのですけれども、そちらでの周知も予定しております。

そのほかには綾瀬駅近辺で商店街フラッグの掲揚ですとか、綾瀬地区の学校と駅周辺に横断幕ですとか懸垂幕を掲げる準備を進めております。さらに綾瀬地区の小中学校で、デフアスリートによる出前教室の実施も予定しております。

企画の段階ですけれども、10月中旬に足立区ゆかりの選手のデフリンピックの壮行会を行いまして、あだち広報の10月25日号、これは先の話なので内々にといいますか、お知らせしてしまうのですけれども、10月25日号にデフリンピックの特集記事が掲載される予定でございます。

また、大会を盛り上げる企画といたしまして、競技当日に東綾瀬公園でイベントの実施、ハーフタイムショーの実施、東京武道館の会場で足立区の割当席を確保するために東京都さんと調整をしていたりですとか、あとは会場を当日盛り上げられるようなフォトスポットなんかも設置できたらなということで検討しているところでございます。

以上でございます。

<盆子原会長>ご説明ありがとうございます。

それでは、ただいまの説明について、ご意見やご質問などがございますでしょうか。よろしくお願いいたします。

<中村委員>おはようございます。中村です。

このデフリンピックが終わった後に何か予定というのは、イベントとかありますでしょうか。<原田スポーツ振興課長>デフリンピックをきっかけとしたイベントの予定ですか。今のところまだないです。

<中村委員>オリパラのときもそうだったと思うのですけれども、終わった後に、この火を消さないために何か考えていけたらいいのかなと思っていますので、1つのイベントが終わってしまうとイベントの数が少なくなってしまうとか、デフの選手の魅力というの、終わった後も継続して魅力を伝えていけるような、そんな活動ができるといいなと思っております。

以上です。

<盆子原会長>本当にそうですね。今回のことがきっかけではありますけれども、引き続き共生社会というところの意味を続けられたらいいと思います。ありがとうございます。

<中村委員>東京2020のときなのですけれども、イベントがあって、それを目的として1年、2年、3年活動していて、3年目に活動がなくなってしまって、いろいろな方々が、そこにスポーツを楽しむに来ていたものがなくなってしまうとか、そういうこともあるかなと思うので、なるべく継続して、デフのこういうイベントがあったということであると、聞こえない子たちもいろいろなス

ポーツを楽しむとか、聞こえない子たちもいろいろなところの活動に出ていけるような、そんな活動も継続してやっていけると、デフリンピックをやった意味はあるのかなと思うので、ぜひみんなで考えていけたらいいかなと思います。

以上です。

＜原田スポーツ振興課長＞ありがとうございます。現時点で決まっているイベントはないのですけれども、私どももデフリンピックをきっかけにそういった理解が進んだりですとか、健常な方も手話とか覚えていただきたいなという思いはあるので、何かしら続けていけるようには考えたいと思います。ありがとうございます。

＜安岡副会長＞デフに限らないのですけれども、今、全国的にスポーツ・体育というところを中心に考えると、部活動の地域移行というのが一つ大きな課題になっていて、足立区さんも多分その流れかと思うのですが、特に耳の聞こえない子どもたちって、ちょっと工夫すると、そんなにハード高くない障がいのない子どもたちと一緒に活動することができるようになると思うのですね。ですので、そこの移行の中に、身体障がいの子もたちももちろん含んでいくべきなのですから、まずはデフリンピックの流れから、聞こえない子どもたちが地域の中でしっかりスポーツを楽しんでいけるように、取り残されないように意識的に含めていけるような、まずそこからやっていただけるのがいいかなと思います。

＜原田スポーツ振興課長＞ありがとうございます。

＜盆子原会長＞植松委員、どうぞ。

＜植松副会長＞幾つか質問です。「区内商店街へポスター約400枚掲示依頼をした」と書いてあるのですけれども、どのポスターを掲示依頼したのですか。

＜原田スポーツ振興課長＞東京都で作ったデフリンピックのポスターが2種類あると思うのですけれども、その2種類をお渡ししています。

＜植松副会長＞ピンク色の2枚ですよ。

＜原田スポーツ振興課長＞そうです。

＜植松副会長＞そのキャラクターが誰だかわかっていないと思うのですけれども、皆さんのために参考に言いますけれども、デフ陸上の山田真樹選手、200m、4×100mの金メダリスト。すばらしいです。亀澤理穂さん、デフ卓球の選手。めちゃくちゃかわいいです。これ、ぜひ見てください。写真撮ったほうがいいですよ。

もう一つ質問です。商店街フラッグが掲出されていますよね。誰か知らないXで検索しました。すばらしいね。今初めて知りました、私。実は品川区もフラッグを商店街に掲出されています。さっき場所を言っていましたけれども、綾瀬地区の商店街に掲出されたという話があったと思うの

ですけれども、そこ以外にも掲出されていますかという質問です。

＜原田スポーツ振興課長＞商店街フラッグは綾瀬だけで、ポスターは足立区全部の商店街にお願いしました。

＜植松副会長＞もったいない。何で綾瀬地区だけに絞っちゃったのという質問です。

＜原田スポーツ振興課長＞綾瀬に東京武道館があるので、会場周辺を盛り上げたいという思いでつけました。

＜植松副会長＞いやいや、足立区全体に広めなきゃ駄目でしょう。予算の問題もあるかもしれないね。そこは分かり切っていることなのですから。でも品川区は10～15の商店街に掲出されています。視認性はめちゃくちゃいいです。足立区のほうがいいです。上手だなと思いました。皆さん、行ってみてください。綾瀬駅が一番近いですが。

＜原田スポーツ振興課長＞駅前の商店街が一番近いかなと思います。結構大きいので、びっくりすると思います。

＜植松副会長＞すごいと思う。後で行きます。写真撮って、品川区に見せようと思っています。

すみません、最後ですけれども、「あだち広報10月25日号に記事掲載」とあるじゃないですか。あれは欲しいです。送ってください。

＜原田スポーツ振興課長＞承知しました。出来上がったからお送りします。

＜植松副会長＞もう一つです。ごめんなさい。

先ほど中村さんが話したように、デフリンピックが終わった後も継続していくお話の中で、学校訪問型パラスポーツ体験事業の中でも、終わった後も継続していくという認識だと思うのですけれども、資料4のその他に「綾瀬地区の小中学校でデフアスリートによる出前教室の実施」と書いてあるのですよ。できれば足立区全部の地区を回っていけるように、中村さんはお仕事欲しがっていると思うので、振ってあげてください。私も欲しいです。

ごめんなさい。以前にも言ったかもしれないですけれども、初級パラスポーツ指導員養成講習会も、受講する人たちを増やしていきたいという数字があるじゃないですか。実は初級パラスポーツ指導員って、デフの人に接する機会がありません。その理由って把握していますか。

＜原田スポーツ振興課長＞分らないです。教えてください。

＜植松副会長＞なぜなら車椅子ユーザーとか視覚障がいの方とか、知的障がいの方も含めてですけれども、そういった内容が多いんです、教材は。聴覚障がい者の部分はめちゃくちゃ少ないんです。接し方とかも含めてですけれども、手話も取り入れるとか、コミュニティをもうちょっと増や

していきたいのであれば、これは足立区に言うことじゃないんですけれども、この初級パラスポーツ指導員養成講習会に関わってくる団体さんに、足立区も意見をどんどん言ってあげてもいいかなと思っているので、申し上げてもらえるとうれしいです。

以上です。

<原田スポーツ振興課長>ありがとうございます。

<加藤委員>足立区ろう者協会の加藤です。

大きな問題は、デフリンピックの知名度アップがまだまだというところです。パラリンピック、オリンピックは皆さん知っていらっしゃる。子どもまで知っている。デフリンピックって何だろうという人がまだまだ多い。東京都の上部団体でも、PRがちょっと弱いのかなと思います。足立区としての考え方は新聞にたくさん載せてもらうとか、デフリンピックが終わってからも知名度が下がらないようにといいますか、もっともっと普及してほしい。デフリンピックというのは、夏と冬と2回あるんです。冬もあるんです。ですから、そういったことも含めて行政のほうで新聞にたくさんPRしてほしいということもありますし、デフリンピックをもっとよく知ってほしいと思います。子どももデフリンピックって何だろう、「あ、やるんだ」ということで、聞こえる人たちと聞こえない人たちの交流というのにも必要だと思います。親にもデフリンピックの知名度をアップさせるために、今、知名度は30%です。50%という目標を行政のほうでもいろいろ考えてほしい。新聞だけではなくて、チラシも配ったりとかしていただければありがたいなと思います。

<原田スポーツ振興課長>ありがとうございます。おっしゃるとおり、私もデフリンピックのPR活動をしていく中で、「そもそもデフリンピックって何ですか」と聞かれることが本当に多くて、その説明をまず一通りしてから、足立区が会場になっているんですという話を次にできるので、やはり認知度が少ないなというのを感じていますし、それを上げていきたいというのは我々も思っています。ありがとうございます。

<盆子原会長>貴重な意見を頂きましてありがとうございます。

どうぞ、佐藤委員。

<佐藤委員>佐藤です。

「ビュー坊のデフリンピック応援隊任命」と書いてあって、今回知ったのですが、足立区のキャラクターがいろいろある中で、ビュー坊さんはかわいくて大人気なんですけれども、ビューティフル・ウィンドウズ運動のキャラクターだということで、あくまでも危機管理部さんがビューティフル・ウィンドウズ運動に関連するところではなく、派遣しないというふうにお聞きしているの

ですけれども、どういうつながりでデフリンピック応援というふうになったのかなと思いました。すみません。

実は11月1日に親の会でフェスティバルをやるのですが、そのときにビュー坊が来てくれないかなと思っていたので、デフリンピックPRのためになら来ていただけるのかなと、ちょっと思ったりしまして。

<岩田パラスポーツ推進担当係長>すみません、岩田からお答えさせていただきます。

おっしゃるとおり、ビュー坊はビューティフル・ウィンドウズ運動のキャラクターなので、ビューティフル・ウィンドウズのキャラクターを知っていただくためにデフリンピックの応援隊をやっているという、ちょっとこじつけみたいな理由になっていますけれども。ですので、ポスター、チラシをつけるときには、必ず「足立区のビューティフル・ウィンドウズのキャラクターです」ということを一言明記して作っているような次第でございます。ですので、あくまでもデフリンピックの活動は、ビューティフル・ウィンドウズの活動を広めるためということです。

以上です。

<茂木委員>地域のちから推進部長の茂木です。

私は前任で危機管理部長をやっていたので、基本、著作権の関係があって、ビューティフル・ウィンドウズの取組でということになっていますが、今回は岩田が説明したように、そのPRも兼ねてというところでお許しをいただいています。

今の佐藤委員が言った取組で使えるのかどうかというのは、当日、着ぐるみかなんかが来てほしいというのですかね。それともロゴとか写真とか、その辺を使いたいということなのですか。

<佐藤委員>着ぐるみです。

<茂木委員>それでしたら、危機管理課のほうに相談するのであれば、ご相談は一緒にさせていただきます。もし使いたいというご希望があるようでしたら。

ただ、著作権の関係があるので、許しがいただけるかどうかというのは向こうの判断になるのですが、その点、ご希望でしたらご協力はさせていただきますと思います。

<佐藤委員>ありがとうございます。11月後半です、デフリンピックって。

<原田スポーツ振興課長>11月16日からです。

<佐藤委員>なので、11月1日にPRできたらいいなと思いました。ありがとうございます。

<盆子原会長>ありがとうございます。多方面からのPR活動をぜひ推進していただきたいと思っています。

ほかにございますでしょうか。飯ヶ谷委員、どうぞ。

＜飯ヶ谷委員＞飯ヶ谷と申します。よろしくお願いいたします。

私たちは地域ごとに、足立区は住民が多分東京都の中では多いほうなので、今日はスポーツ推進委員会の会長もいらしていますが、全部で今 82 名の推進委員が各地域で、綾瀬だけじゃないところにもスポーツ推進委員を配置しています。そのスポーツ推進委員たちは、どちらかというと現場のほうに、いろいろなパラスポーツを持って学校に伺ったり、地域に伺ったりということで今までやってきましたが、私もこの会議に出させていただいてから、自分の地域で先々週にボッチャ大会を町会で声をかけてやっている中に、お隣の鶴沢さんとか、ここでお知り合いになった先生にお声をかけて、障がい者の方たちも参加していただくようになりました。どんなふうになるかなと思ったのですが、全部合わせると 100 人ぐらいで、チームをつくってボッチャ大会をやってみたのですが、ふだん集まっている健常者の皆様も、障がい者の皆様も、当日見ていたらすごく上手で、普通の町会から上がってきた人が負けちゃったり、仲よくみんなでできているのを現場で見られる立場は、足立区の中でもスポーツ推進委員が一番多いと思うのです。

それ以外にも、視覚障がいの方々の方には、足立区というよりは、いろいろなところに回って私たちもお手伝いに行っているのですね。さっき言った初級障害者指導員の数も、スポーツ推進委員は強制ではないですが、40 人ぐらい取って、ここ数年当たっているのですが、ちょっと不安に思ったのが、イベントに行く足立区はコンシェルジュがいて、そこで相談はできるのですが、今考えているレベルの中では、コンシェルジュの数は少ないほうだと思うのです。足立区役所まで相談に行ける人は少ないかなと。地域でこういう行事をやっている中で、実は私も障がい者の方から、「こういうのをやりたいんですけども」という話とか、足を切断した子どものお母さんから地域で相談があって、車椅子テニスで活躍できるようにご紹介することができたので、コンシェルジュについてももう少し違う形で区民の人が相談しやすいように、障がいを持ってやっていらっしゃる方から私たちもお勉強できるので、そういう機会が今まで全然なかったのも、チラシを配ってもなかなか集まってこなかった。そういう人たちと接している方と私たちが連絡を取れると、1 チームだったのが今年は 2 チーム参加してくれて、優勝を持っていかれましたけれども、みんなにすごく楽しんでいただけた。

実はそのポスターを私は見ていないのです。端のほうだからなのだと思います。そういうのもぜひ配っていただいて、やはり役所に行って相談しなきゃいけないという考え方があります。障がい

者の人が気軽に相談できるスポーツ推進委員とかに頼ってほしいなというのがありますし、今度のデフリンピックもようやくお話をいただいて、今、会長の号令の下、スポーツ推進委員が集まって何かやろうという動きが出たのが先週です。やっとこれから中身を考えるのですが、組織的だとしなきゃいけないみたいなものがあるのですが、ここには障がい者のトランポリンをやってくださっている齋藤先生もいらっしゃるのですが、何十年も障がい者の方を相手にご指導されていて、私たちの普通のトランポリンの大会にも一種に出るようになりました。そういう地べたのほうでもう少し相談できる場所というのですか、ほかのことは相談する場所はいっぱいあるのですが、障がい者の人たちが気安く相談に行ける場所が、イベントでは見るのですが、その後どこに行っていないか分からないというのが現状だと思います。これから先そういうのが増えていくといいなと思いますので、よろしくお願いいたします。

＜原田スポーツ振興課長＞ありがとうございます。

コンシェルジュもお一人で切り盛りしていて、スポーツ推進委員の方々に協力いただきながら、多くの方がパラスポーツとかできるようになるといいなと思うので、今後一緒にできるか、ご相談させてください。ありがとうございます。

＜盆子原会長＞ありがとうございます。

先ほどのスポーツ推進委員の 82 名、その中で

40 名の方がパラスポーツに関与されていると。昔から日曜学校等でそういった活動をなさっている方がいっぱいいらっしゃる。また、トランポリンも随分前からそういった活動をなさっているというところで、そういったところでのつながりがもっとできたらいいかなと思っております。よろしくお願いいたします。

そのほかございませんでしょうか。

＜茂木委員＞地域のちから推進部長の茂木です。このデフリンピックを担当している部長でありますので、皆様からいろいろご意見を頂きましたので、簡単に 3 点ほど、かいつまんでご説明申し上げます。

最初に、中村委員ほか、イベントだけではなくて今後の取組につなげていかないといけないのではないかなというお話がありました。まさにそのとおりでございます。

一方で、我々も走りながらイベントをやっているところが正直ありまして、この後しっかりこれを今後につなげていこうと今検討しているところでございます。特に我々としては、小学校・中学校で出前講座というのですか、そういったところで体験をしてもらう、知ってもらうというところを中心に、またイベントの場で、こういったことを知ってもらうというところを中心に取り組んでおりますが、イベントが終わった後も何が出

きるのかというのは検討していきたいと思いきすし、そこが決まりましたら皆様に情報提供というか、ご意見を頂ければと思っております。

2つ目にPRでご意見を頂きました。植松委員からは、フラッグのデザインがいいということでお褒めをいただきましてありがとうございます。足立区のほうでフラッグを200かけました。5つの商店街に200。そのほか、これから懸垂幕とか横断幕とかを街に出していきます。そういったことで、できる限りのPRをやりたいと考えていますし、知名度を上げることも併せて取り組んでいきたいと思いきす。何か区の取組でマスコミにリリースができるものがあつたら、具体的にその辺もやってまいりたいと思いきす。

飯ヶ谷さんからお話があつた相談体制、これについては今、原田課長がお話したとおり、これだということは今ないのですが、我々もその点については課題だと思っております。今後も地域でやられているスポーツ推進委員の皆さんにご相談しながら進めていければと思いきすので、今後ともご指導をぜひよろしくお願いいたします。

私のほうから3点、以上でございます。
＜盆子原会長＞ご説明いただきましてありがとうございます。

それでは、次に移らせていただきます。

続いて、排せつコントロールができない方のプール利用について、事務局より説明をお願いいたします。資料5をご覧ください。

＜原田スポーツ振興課長＞それでは、ご説明させていただきます。こちらは当日の配付となりまして申し訳ございません。追加資料といたしまして机上に配付させていただきました。

この件につきましては、第4回目の協議会で、おむつが取れない子が全くプールに入れないのはどうか、多少おむつが取れない方も入れるようなプールがあるといいというご意見を頂きまして、区として検討を進めてまいりました。

前回の第6回協議会では結論には至らず、引き続き調査中であることのご報告をさせていただきました。今回はそちらの調査結果のご報告をいたします。

これまでの経緯からでございます。

第4回協議会、昨年12月では、おむつが取れない子のプール利用に関する委員意見に対しまして、区は条件等を確認すると回答しております。

その次、第5回の協議会（令和7年3月）では、年2回の水の入替え作業前の限定利用についての検討をいたしました。が、作業工程上困難との結論に至りまして、東京都障害者総合スポーツセンターのご利用のご案内をいたしました。

こちらに対しまして、委員から、ラテックス製の便が漏れないタイプのプール用おむつの着用可能性について再度調査するべきだとのご意見

を頂いておりました。

続きまして、2番の関係者からの聞き取り内容でございます。

足立特別支援学校、花畑学園さんのプールの利用状況ですが、ラテックス製のおむつは使用しておらず、排せつコントロールが難しいお子様は、直前にトイレを済ませまして、入水時間を短くしております。

プール内で排せつがあつた場合は、全員プールから出ていただいて、薬剤投入ですとか、水質基準が適正になるまで利用を中止しているというお話を伺いました。

続きまして、（2）の保健所の見解でございます。最終的な判断につきましては施設管理者に委ねられるというところでございますが、ラテックス製のおむつでも、ご利用中に排尿や排便があつた場合、水質が悪化する可能性があるため、障がいの有無にかかわらず、じゃぶじゃぶ池と同様に、水質悪化の観点から、排せつコントロールができない方のプール利用は望ましくないと考えているという見解でございます。

裏面でございます。

23区の公営プールの状況でございます。屋外幼児プールに関しては、以下の事例がございました。世田谷区と目黒区の屋外幼児プールの利用については、プール用おむつの上に水着を着用すれば利用可能としています。便が漏れた際の対応としては、いずれも利用中止にするとしておりまして、世田谷区さんは消毒の実施、目黒区さんは水を全て入れ替えるということを行っております。

4番の足立区の公園等にあるじゃぶじゃぶ池についてでございます。こちらは、おむつを使わなくなった就学前のお子様を利用可能としております。

5番、結論でございます。現時点では排せつコントロールが難しい方の足立区のプール利用は困難であると判断いたしました。仮にラテックス製の便が漏れないタイプのおむつを使用したとしても、利用中に排尿、排便があつた場合、水質が悪化する可能性があり、短時間で基準値内に水質を戻すためのろ過ですとか消毒が難しいという結論に至りました。

最後に参考となりますけれども、足立区プールの衛生管理に関する条例施行規則別表第2には、プールの水質基準が定められております。こちらの基準を維持することが求められております。

説明は以上でございます。

＜盆子原会長＞ご説明ありがとうございます。

それでは、ただいまの説明について、ご意見、ご質問などがございますでしょうか。よろしくお願いいたします。

＜安岡副会長＞安岡です。

ありがとうございます。これは別の方法で入れ

る方法があるんじゃないでしょうかという提案を私がさせていただいて、排便、排尿のコントロールができていないお子さんにも、プールを楽しんでいただくきっかけがあるのだったらなと思ったのですが、しっかりこれだけ調べていただいて、その上で現状では難しいということがはっきりいたしましたので、様々な方たちのご要望もありかとは思いますが、しっかり説明ができる根拠が確立されたかなと思います。お時間かかったと思いますが、様々調べていただきましてありがとうございます。

<盆子原会長>ありがとうございます。

そのほかご意見がございましたらどうぞ。

佐藤委員。

<佐藤委員>初めに私が質問させていただいたことで、こうしていろいろなことを調査していただきまして本当にありがとうございました。

共生社会を目指すといっても、何でもかんでも共生はできないということをしみじみ感じておりますが、東京都障害者総合スポーツセンターみたいな障がい者用の施設があるといいのかなと、ちょっと思ったりもしました。

陸上でいろいろとやれることはあるので、いろいろと運動させておりますけれども、水中の運動というのは、陸上の運動と違った効果が結構あるなと思っているので、できないと諦めている人たちはたくさんいるので、何とかならないかなとは思ったのですけれども、川とか海とか行くのはもっと危険なので、なかなか難しくて。

<茂木委員>こちらの基準というか、今日お示しする前でもいろいろ衛生部と相談したり、いろいろ検討させていただきました。足立区の条例施行規則で基準というのがあるのですが、もともと国のほうから示されている通知の中で示されている基準で足立区は運用しているという状況です。

共生社会に向けてというお話がありましたので、我々も何とか将来的にはその方向で少しでも実現できるように努力してまいりたいと思います。例えばおむつの機能がもう少し向上するか、もしくは国の基準の変更だとか、そういった国やほかの自治体の動向は継続して調べたり、調査はしていきたいと思いますので、決してこれで整理して今後やらないということではありませんので、何とか将来的には一歩も二歩も進めるように努力はしてまいりたいと思いますので、そのあたりご理解いただければと思いますし、定期的にそういったご相談をいただければ、我々としてもお答えさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

<盆子原会長>そのお言葉を頂きましてありがとうございます。

前から、赤ちゃんプールと同じではないかという話だったと思うのですね。そうすると、プール

で使えるおむつを限定するということがまず1つと、各プールの中で、いわゆる異なるルールを設ければいいんじゃないかなと。こういったところで解消するのではないかなと思っております。引き続きご検討のほど、よろしくお願いいたしますと思います。

中村委員。

<中村委員>せっかくこのパラスポーツ推進協議会があるので立ち止まらないで、障がいがあるから何かができないとかというところを、きれいごとかもしれないですけども、この中で知恵を出し合って、ひょっとしたらほかの外部団体からも力を借りながら、一歩でも二歩でも前進していけるように、前向きに話していけたらいいなと思います。

<安岡副会長>先ほど共生社会の中でプールに入るという楽しみを排除される人たちがいるというのはよくないんじゃないかというご意見がございまして、それは本当にそのとおりで思っているのですね。

ただ、インクルーシブな社会というのは、障がいのある人たちだけのために考えるものではなくて、社会の中にいるあらゆる人たちが楽しむということが大前提にあるので、その時々最大公約数的な解を都度都度見つけていくということをやを繰り返すという作業が必要になってくるかと思うのです。現時点で最大公約数的な解というのは、申し訳ないけれども、水質の保全を考えると難しいですということなのですが、中村さんがおっしゃったみたいに、その時々解というのは、状況によって変わってくると思います。

ですから、今、誰もここで、この先未来永劫できないですということはもちろん言っているわけではないので、そこを探しながら、何とかそういう機会を確保していけるようにみんなで考えましようねということを今ここで確認できたということなのかなと思います。

<盆子原会長>ありがとうございます。

そのほかご意見ございませんでしょうか。

では、続いて各委員からのお知らせ等に移ります。皆様から何かお知らせなどございましたらお願いいたします。ちょっと開催まで期間がありますが、その間に何かございましたらどうぞ。

加藤委員、どうぞ。

<加藤委員>情報提供となります。足立区ろう者協会の加藤です。

9月16日、足立区消防署から、初めてのことでございますけれども、ほかの障がい者団体は分かりませんが、私たちの団体に依頼があって、東京武道館でデフリンピックを想定した地震の避難方法を考えるとか、けが人とかがいたらどういうふうな対応をするのか、手話をするのか。「痛い」という表現は簡単な手話ですから覚えていただ

くとか、外国人の方が分かりやすいような身振りというものとか、言葉ではなくて身振りを使うということがすごく必要なのだということも消防のほうで理解してもらって、「危ない」という表情、そういったことを指導するというか、教えるという2時間ぐらいのイベントをやるのですけれども、避難方法とか、耳の聞こえない人に対する対応方法を私たちろう者協会から説明をするというイベントがあります。総合防災訓練の一環としてやるということです。

<盆子原会長>ありがとうございます。

前回でしたか、危険があったときにパトライトの話もなさっておられましたね。

<植松副会長>聞こえる人たちの出席予定があるのでしょか。

<加藤委員>あります。

<植松副会長>どこに集まるのでしょうか。

<加藤委員>ろう者だけの参加というと20人ぐらいでしょうか。一般の方は、消防の方も含めて、参加というのはあります。

ろう者というのは、やはり目で見ていろいろなことを判断しますので、後ろのほうで何かあっても分からないわけです。そういったことを想定した訓練をするということです。消防の方が来てやるということです。ろう者は5〜7人で、前のほうに座ってやるということで、後ろのほうで爆発とか火事があったときに、どういうふうな対応をするのかとか、避難方法はどうするのかということです。ろう者の5人には前もって説明せずに「前のほうに座ってください」と言って、後ろのほうで何かが起こったという想定をしてやるということです。皆さんにはそういった想定は前もって言わないで訓練をします。終わった後に、外国人の方とかにはこういった対応をするのか。アメリカの方とかヨーロッパの方とか、違いがあるのですね。消防署の方にいろいろな違いがあるということを説明します。手話も違うということも説明します。身振りとか表現方法もあるということも教えていきたいと思います。外国の方は避難というのは分かりません。「逃げる」というジェスチャーは分かりません。海外の方には通じないです。今お話があった赤のパトライトで示すとか、英語の文字で示すとかいう方法がある。英語とかフランス語とか、いろいろな文字で情報を伝える方法もあるということも伝えたいと思います。

<植松副会長>すばらしいですね。何がすばらしいかというと、足立区役所のエレベーターもすばらしい。気づきましたか。知らないでしょう。非常用の黄色いボタンがあるじゃないですか。よく見ると左に耳マークのボタンがあるんですよ。あれを押すとモニターに顔が出てきて、筆談を見せたり、しゃべれない人だったら手話ができるよう

なスタッフが出てきたら安心感があります。ああいうエレベーターを取り入れているのは、僕が知っているのは都内では2か所しかないです。足立区役所と羽田空港の国際線ターミナルしかないんです。すごくない？ なぜこのエレベーターができたのか。その根本的なところは共生社会の実現をやっているんですよ。皆さんが使いやすいエレベーターにしようと。これをつくる前に、聞こえない当事者とか、いろいろな障がい当事者を集めて、車椅子ユーザーも入りやすいエレベーターにしているんだなと。そういう観点かなと思ってるので、今のお話の防災訓練も、この間、東京芸術劇場さんから、実際にコンサートをやっている想定で防災訓練をやりたいと。僕は呼ばれました。聞こえない人も聞こえる人も、車椅子ユーザーも、目の見えない人も、みんな入った想定で、どういう形の防災訓練だったらスムーズにいくのか。聞こえない当事者だったら、どういうアナウンスが一番いいのかなと。全て話し言葉になっていませんかと僕は聞きます。見る言葉が出ていますかと。

僕は音声認識アプリをよく使うのですが、よくしゃべってきているなと思ったら、自分から情報を引っ張ってこられるようにアプリを開いて、こんなことを言っているんだなということは自分も想定して準備しておく。防災訓練やる人たちも準備しておくものは何かというのを、いろいろな当事者を集めてちゃんと話し合ってから防災訓練をやってほしいなというのが僕の思いだったので、今話を聞いて、ちょっと触れさせていただきました。

<盆子原会長>ありがとうございます。

スポーツというところから日常生活に落とし込んでいくというところに、非常に意味があるかなと思います。

足立区のエレベーターがそんなにすごいとは思わなくてびっくりしました。ありがとうございました。

<植松副会長>後で見てください。

<盆子原会長>そのほか。どうぞ。

<岩田パラスポーツ推進担当係長>すみません。先ほどの加藤会長のお話にちょっと補足させてください。

デフリンピックに際して、デフリンピックの競技会場でそれぞれに避難訓練など総合訓練をやりなさいというお達しがありまして、それで東京武道館は管轄の綾瀬の消防署が消防訓練をやるということになっております。当然、耳の聞こえない方、外国籍の方、大勢の方がいらっしゃるの、皆さんが安全に避難できるようにということを考えて実施されます。その結果、ろう者の方々には感想なども伺って、実際にどうすればよりよくなるのかというヒアリングもやると聞いてお

ります。私たちスポーツ振興課も、その日は拝見させてもらいたいと思って、行くことにしております。

以上です。

<盆子原会長>ご説明いただきましてありがとうございます。

それでは、原委員、どうぞ。

<原委員>足視協卓球クラブの原です。

中間報告なのですが、今回の会議が2月～3月になるというので、皆さんに報告しておいたほうがいいのかと思ひまして、最後なのでお話しします。

スポーツコンシェルジュの坂東さんに日頃お世話になっていまして、私は視覚障がい者の人たちが楽しめる音の出る卓球、サウンドテーブルテニスを毎週楽しんでいるのですが、そこに行くのに、今日もそうですけれども、一人では歩行が危険で困難なので、常にガイドヘルパーさんのお世話になっています。今も暑い中をお迎えに来ていただいて会場まで、部員さんも自宅から会場の総合スポーツセンターまでは結構大変なのですね。バスとか電車とか、あとは歩いてきて、暑い中をやれやれと来るんです。ヘルパーさんのお世話で無事に来られるのですが、その後私たちの卓球台を出す仕事があるんですね。それは私たち視覚障がい者には困難で危険なので、現状はガイドヘルパーさんをお願いして、セットアップしてもらったり、ゲームが始まると落ちたボールを拾ってもらうのもガイドヘルパーさんをお願いしているのですが、それって結構ガイドヘルパーさんが大変なのを常々感じていまして、スポーツコンシェルジュさんに、私たちのクラブにお手伝いしてくれるボランティアさんの募集をお願いしております。

今も出していると思うのですが、足立区さんのほうからボランティアさんがなかったのですが、先日、東京都のほうでボランティアの研修会か活動の一環の中で、うちのクラブにボランティア活動として一度見学とか体験とか、お話を聞きに来たいということで、足立区さんを通して私と東京都の方とやり取りしているんです。私はとてもうれしくなって、今決まっているのは、10月15日の第3水曜日に、人数は5名ということで希望者がありましたら来ていただいて、私の希望で言えば、できれば地元の足立区の近所にお住まいの方で、来るのに交通の便がいい方とか、やってみてできたら私たちのスポーツのボランティアにずっと付き添っていただけるお気持ちがある方を希望しますということで補足はつけているのですが、ぜひいいボランティアさんが来て、ガイドヘルパーさんの困難さを少しでも解除していただけたらいいなと願っています。スポーツコンシェルジュさんの存在があ

ったから、こういうふうにし少し発展したかなと思っています。

中間報告なのですが、これが具体的に決まりましたら、会議のときに報告したいと思ひます。ありがとうございます。

<盆子原会長>ご報告いただきましてありがとうございます。

以前から、ガイドヘルパーの時間を増やしていただきたい、現状についてもっと知っておかなければいけないことが多くあったということ。そういったことについては周知しておりますので、今後また協議していきたいと思ひます。ありがとうございます。

どうぞ、齋藤委員。

<齋藤委員>つばさの会の齋藤と申します。

10月にイギリスのスペシャル大会があります。そこに日本から3名の選手を送ります。その中の1名が足立区の選手です。ですので、足立区のほうで協力していただけることがありましたら、よろしく願ひします。

以上です。

<盆子原会長>ありがとうございます。トランボリンですね。

そのほかございますでしょうか。

昨年でしたけれども、花畑学園で学園祭がありました。学校というのは、いわゆる子どもと親のグループ、そういったラインでのつながりが非常に強いと思ひしております。そういったところで情報提供の場づくりをされているということでしたので、ぜひ皆さん、ご興味を持って参加していただきたいと思ひしております。

そのほかないでしょうか。

それでは、本日の協議事項は以上となります。事務局に司会を戻します。

5 次回日程について

<原田スポーツ振興課長>本日はご審議いただきましてありがとうございました。

次回の日程につきましては、1か月ほど前には開催の通知を出させていただきまして、2週間ほど前には会議資料をお送りさせていただきました。お忙しいところ大変恐縮ですが、次回もぜひご参加のほど、よろしく願ひいたします。

最後に事務連絡が2点ございます。

1点目でございます。会議の冒頭でご説明させていただきましたが、第6回の議事録をお送りしております。ご自身のご発言の部分を中心にお読みいただきまして、修正等がございますしたら事務局までおっしゃってください。

2点目でございます。お車でお越しの方は無料の駐車券をお渡ししておりますので、出口におります係員にお声がけください。

それでは、以上もちまして本日の推進協議会を
終了いたします。誠にありがとうございました。